

この本、いかがですか？

疾病志向型から健康志向型へ、 実践者のための指南書

鳥取県倉吉保健所長
小倉加恵子

本 書を手に取り、まず強いインパクトがあったのが、冒頭の節でした。乳幼児健診の「基本的な心構え」として、「健診は医療の延長ではありません」という文章から始まります。最近では子育てが「孤育て」としばしば表現されるように、孤立した育児環境に伴う保護者の育児不安や育児負担感の増大は社会課題の一つであり、そこから発展し得る児童虐待のリスクが指摘されています。乳幼児健診の意義として、子どもの健康状態の確認や疾病スクリーニングとともに、子育て支援の意味合いがますます大きくなってきました。また、2024年から始まった国民健康づくり運動プラン「健康日本 21(第三次)」では、ライフコースアプローチとして胎児期から高

齢期に至るまでの生涯を踏まえることが必要とされ、乳幼児健診はそのキーポイントの一つとなります。本書はこうした社会ニーズにコミットしており、冒頭の言を通じて、乳幼児健診にむかう医師の構えを疾病志向型から健康志向型へ切り替える、実践者のための指南書であると感じました。

本書の内容も充実しています。初めに総論として「乳幼児健診の実際」が示された後に、各論として「月齢別の健診のしかた」に続きます。各月齢の健診における診察方法が手順に沿って分かりやすく解説されており、シンプルな図表とかわいらしいイラストにより理解が進みます。また、それぞれの月齢の保健指導の要点やよくある質問への対応についても

乳幼児健診マニュアル 第7版

- ・編：福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会
- ・定価：3,520 円(本体 3,200 円+税 10%)
- ・判型：B5
- ・頁：178
- ・発行：2025 年 01 月
- ・ISBN：978-4-260-05756-1
- ・<https://www.igaku-shoin.co.jp/book/detail/115148>



解説があります。健診現場ですぐに使える具体的な指導法が簡潔に記され、後に続く「育児相談・育児支援」の詳細な解説により理解が深まるよう工夫されています。さらに、「各月齢の発達の目安・ポイント一覧」が本書の見開きにあり、健診直前にサッと確認事項をおさらいするのに役立ちます。この内容はしおりとして付録にもなっていて、読者への細やかな配慮を感じました。

さらに本書の特徴は、情報の適時更新にもあると思います。第7版が改訂された2024年度現在、「こどもまんなか社会」の実現をめざして国がこども家庭庁を設置して1年が経過しました。母子保健行政において、これまでにない勢いでさまざまな政策が打ち出されています。

乳幼児健診についても、こども未来戦略「加速化プラン」において推進することが明示され、1か月児健診と5歳児健診が国庫補助事業となりました。本書はこうした状況を遅滞なく捕捉して内容を更新し、コラムに新項目も取り入れられています。一般的に医療現場に新しい政策情報は届きにくいものです。本書は改訂を重ねることにより時勢をとらえ、現場において必要な情報を遅れることなく紹介しています。本書の編集委員会である福岡地区小児科医会のご尽力はいかばかりかと心からの敬意を表するとともに、小児科医はもとより多くの乳幼児健診関係者に広くご活用いただきたい一冊であると思います。

①